

== 特集 =====

北海道支部の標本交見会でのバーチャルスライド活用

独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター臨床研究部
山城 勝重

北海道支部は現在130名以上の会員がおり、2ヶ月ごとに開催される標本交見会には毎回50名以上の病理医が参加する。これまではガラススライドを50施設以上に配布する形で運用してきたが、2009年度からはこれに加えて、交見会に先立ち配布標本をバーチャルスライド化し、インターネット経由で観察できるようにした。ほぼ1年経過した現状を報告する。

対象と方法: 1) 未染ガラススライドは症例提示者から症例の経過などの要約とともに交見会幹事施設に送られてくる。このうち1枚が北海道がんセンターに送られ、HE染色標本にした後に米国アペリオ社のScan Scope CSでバーチャルスライド(以下、VSと略)が作成される。作成されたVSはそのままSpectrumサーバの管理下に保存され、インターネットからWebブラウザで閲覧できるようになる。幹事施設の担当者はプログラムのWordファイルにそれぞれのVSのURLを書き入れ電子メールで会員に配布する。2) 2010年1月に日本病理学会北海道支部会員132名を対象に、今年度から実施した支部の交見会での検討症例標本のVS公開についての感想、VSの今後の展開を問うアンケートを郵送にて実施した。

結果: 1) 2009年度は5, 7, 9, 11, 1, 3月に計6回の標本交見会が開催され、計30症例が提示された。VSは36枚作成され、ガラススライドが配布されたものは26枚であり、配布が困難で、VSのみとなったものは10枚であった。2) アンケートの結果: 回答は74名(56%)から得られた。交見会プログラムから症例のVSにアクセスできることを知っている人は63名(85%)であり、うち51名がVSを容易に観察できたとしている。観察者の感想としてはVSの画像自体はきれいとの感想をもつ人が多かったが、多くの人が顕微鏡観察よりは所見がとりづらいというものであった。さらに多数派の意見をなぞると、交見会提示症例をインターネット上のアーカイブとして蓄積・公開することは賛成だが、北海道支部の病理医だけに公開すべきである。過去にさかのぼって公開する場合は公開に同意した症例のみにしてほしい。その際、個人情報の秘匿が必要であり、症例の経過記載も慎重にすべきである。将来的にはVSを活用したコンサルテーションもあり得る。ということになる。

結論: VSを交見会の症例提示にガラススライド配布と並行して行ってきたが、症例によってはVS抜きでは交見会自体がなりたないところまで来ているように思われる。VS利用へのハードルはかなり低くなっているように思う。会員との討論を重ねながら、過去症例のアーカイブ化、データベースへの取り組みを行っていきたいと個人的には希望している。

病理診断均てん化を目指したバーチャルスライドの利用実績

岩手医科大学病理学講座先進機能病理学分野
黒瀬 顕、澤井 高志

厚生労働がん臨床研究事業研修会として日本対がん協会との共同による「がん病理診断均てん化研修会」が三回を数える。これは日常的病変でありながら病理医による診断の差異が出やすい症例を主体とする研修会で、症例の事前供覧のためにバーチャルスライド(VS)を用いている。第一回(平成19年度)、第二回(同20年度)は東北支部学術集会と併せて開催し会員を対象にアンケート調査を実施したのでその結果を基にVSの利用について考えてみる。

両会ともに110名余の参加があり約半数からアンケート回答が得られた。主な結果を以下に示す(括弧内数字は第一回→第二回の順)。

病理診断にかかわるITに関して抵抗なく操作できる(56→59%)。VSによる症例供覧の長所の問いには、小検体に有効(80→85%)、どこでもみることができる(80→80%)、配布や返送の手間が不要(48→46%)等であった。VSの短所は、ガラス標本と比べ質感が大きく異なる(44→51%)と増加したが、反応が遅い(54→49%)であった。事前供覧方法は何かとの問いには、インターネットによるVS公開(69→75%)、ガラス標本配布(31→19%)。VSの病理組織画像はガラス標本に劣る(69→71%)。VSが症例の勉強になる(98→98%)、VSが病理診断均てん化に役立つ(80→85%)であった。

これらの結果から病理診断現場におけるITの進出とインフラの整備、およびVS観察を含めIT関連機器への抵抗感の減少が伺える。症例の供覧方法としてガラス標本よりもVSを是とする回答が予想以上に多かったことは驚きであった。VSの質に対する不満は増加したがこれはVSの普及やインフラの整備の結果質的なものへの要求がより高まったためと考えられる。以上、簡便な操作性と迅速な反応が達成されれば、病理診断精度向上のためにVSの活躍できる土壌は十分ありとの感がある。しかしVSがガラス標本と比べ便利だからというだけの理由にとどまってはならず、VS普及により病理診断精度が向上するという結果を得られるような利用を模索することが必要である。VSを是としつつも病理組織像(そこには様々な要素が含まれると思うが)はガラス標本を凌駕するものではないのであるから。

われわれは本学医療情報センターの協力のもと、VS観察と同時に診断や診断根拠等を同一画面で回答し、出題者がその集計結果を閲覧できる方法(岩手医大方式)を開発した。この方式は前述の研修会の症例供覧で利用しているが参加者と講師双方から好評である。単にVS公開に留まらずこの様な

双方向性の方式を附随できるのもインターネットの利点である。

「がん病理診断均てん化研修会」には東北支部の病理医を中心に多数の参加を得てアンケートをまとめることができました。毎回この会を運営して感じることは参加病理医の病理診断精度向上に対する真摯な姿です。ご協力頂きました先生方に感謝致します。

バーチャルスライドの活用

さいたま赤十字病院病理部 兼子 耕
当院にバーチャルスライド(以下VS)が導入された経緯は、4年前のがん拠点病院に対する第一回助成措置によるものである。院内カンファレンス、外部へのconsultation依頼などにも用いられる事はあるが、その頻度はあまり多くないのが現状である。その理由としては、院内に関してはLANの構築が不十分であり病理部内でしか閲覧が出来ないこと、外部はやはりガラスを希望するconsultantが多いからである。

埼玉県では年3回の勉強会(埼玉病理医の会と称し前回は54回であった)が開催されており、従来は全国で行われていると同様約25施設に代表的な標本を配布鏡検するというスタイルであったが、第48回(約2年前)からはVSを導入し、web上に標本を公開する方式に変更した。具体的には、演題提出者は数週間前にVSを有する病院(当番施設)に症例サマリーと一緒に公開したい標本(何枚でも可)を送り、当番施設の病理医がサマリーと標本をVSに取り込みweb上に公開、勉強会当日は通常のパワーポイントにて発表を行っている。当日、会場にはVSに取り込んだ標本を展示し鏡検できるようにしており、演者への返却もそのときに行う(ルーチンの標本を用いるので新たに標本を作製しなくても良い)。

この方法のメリットは、1)薄切が不要 2)微小検体でも議論の対象とできる 3)多数標本を公開可能(免染等も含む) 4)同一情報を元にした議論が可能、等の点が挙げられる。デメリットとしては 1)受信側のインターネット環境により速度・画像等が均一ではない 2)ガラス標本の鏡検以外は受け入れられないという会員の存在 3)当番施設の負担がやや大きい点である。概して、このやり方は好評であるが、現時点では未だ画像に関しての不満は否めない所がある。当院の機種は浜松ホトクス社製であり、焦点のスキヤン幅を細小0.1 μ mまで変更可能である点が優れていると思われるが、受信サイドでの操作法が熟知されていないようである。

今後の課題としては、会当日にインターネットに接続し実際の標本をVSで動かしながら検討できればと思うが、そのような環境の会場はなかなか見つからないことと、恐らく時間がかかりすぎるのが問題であろう。さらに、標本全体ではなく、この部位に注目して議論をしたいというような場合、マーキング(annotation機能の活用)を施した上で公開すればさらに議論が深まる事と思われる(現状では、出題者と当番施設間でそのレベルのコミュニケーションがとられていない)。さらに画像の精

度が上がり、インターネット環境が整備される事がこの方式の鍵を握っていると思われる。

以上、埼玉病理医の会で行われているVS活用の状況を紹介した。

中部支部におけるバーチャルスライドの利用と問題点

中部支部長 白石 泰三

中部支部としてのバーチャルスライド(VS)の利用は供覧症例の呈示に始まる。従来より中部支部では年に3回の標本交見会を開催しているが、数年前からその提示症例をバーチャルスライド(VS)化して会員に公開している。当初は富山大学病理学講座の好意で公開していた。2年前に事務局が三重大に移管されたことを契機にサーバーも移動となった。中部支部の交見会では支部内の50施設にのみ実際の顕微鏡標本が配付されるので、それ以外の施設の病理医があらかじめ標本を鏡検するためには配付施設に向く必要があった。VS化は非配付施設の病理医の利便性を高めるために開始された。さらに、1年前からは、VSによる症例呈示も行われるようになった。通常は呈示者が50枚の標本を準備する必要があったが、生検標本など小さい標本、あるいは全く同じ標本を供覧する必要がある場合は、標本を1枚事務局に送付し、そこでVS化し、他症例(通常の標本)と共に50施設に送付するものである。VS化には専用のビューワーソフトで閲覧する方式と、HTML化し通常のブラウザソフトで閲覧する方式がある。前者はwindows機専用のソフトとなるため、マックユーザの会員に配慮し後者の方式で配付している。

運用上の問題点であるが、専用のオペレーターがいないため迅速な対応が困難で、VSの操作に不慣れな会員からの問い合わせに十分な対応が出来ない、サーバーのスペック不足による操作性不良、などがある。これらは、もっぱら施設内、あるいは少人数を対象としたシステムを、ボランティア的に流用していることに起因している。学会としてサーバーを管理できる体制の整備が望まれる。

なお、提示症例のVS公開は一過性で、交見会が終了すればVSも非公開になっていた。今後は、提示症例をデータベース化し、VSも随時閲覧可能とする計画である。

バーチャルスライドを用いた細胞診講習会の紹介

和歌山県立医科大学第二病理

森 一郎、尾崎 敬、谷口恵美子、覚道健一

バーチャルスライド(以後VS)の利用方法の一つとして、当教室主催で行う今年秋の臨床細胞学会で計画しているVS講習会を紹介したいと思います。臨床細胞学会では以前からVSセミナーと称して、学会前に課題症例をVSでホームページに掲載して診断を求め、学会当日に講師がその集計結果を参考にしながら解説を行う形式でセミナーが行われてきました。もともと細胞診標本は全く同じスライドが二枚とないのが特徴です。病理組織標本を用いた症例検討会ではHE標本を数十枚用

意して学会前に各施設に配布する形式が広く行われていますが、細胞診ではこれは不可能です。そのためもあって臨床細胞学会でVSセミナーが行われてきた経緯があるわけですが、学会のホームページは学会終了後に閉鎖されるので、正解の解説を聞いた後で繰り返し標本を見るのは困難です。またセミナーと言うことで稀少症例や診断困難例が多くなり、後日見直す頻度はあまり高くありません。そこで考えてみたのが今回のVS講習会で、違いはVS化した細胞診標本データをDVDで事前に配布する点、もう一つは稀少症例や診断困難例ではなく、比較的初心者を対象とした講習会とすることにあります。典型例主体の講習会になると期待され、その結果講習会後も手元に残るDVDとハンドアウトが良い教材になるのではと期待しています。

具体的には、参加人数を会場の都合もあって100名に限り、事前に募集して先着順とします。当選者にはDVD作製と郵送の実費を負担していただく予定です。当日はDVDに同梱したVSビューワソフトをインストールしたパソコンを参加者に持参していただきます。この際に、VSデータもDVDから内蔵ハードディスクにコピーしておくことより素早い操作が可能になります。会場に2面のスクリーンを用意し、一方をVS、もう一方をパワーポイント用に使います。演者には実際にVSを操作しながらパワーポイントで要点を表示し、解説していただく段取りになっています。参加者は自分のパソコンでVSを操作しながら解説を聞いていただくこととなります。この講演会のために、机と電源のある部屋を用意し、臓器別に6コース各1時間の講演会としました。

大きな問題はVSのデータサイズです。厚みのある標本も多く、フォーカス面をずらして数層スキャンして合成する疑似フォーカスが不可欠ですが、その層の数だけデータ量は増加します。スライドガラス一面に塗りつけた尿細胞診標本を、2ミクロンずつずらした10層でスキャンしたVSは、設定にもよりますが10ギガバイト以上になります。CDは始めから問題外でしたのでDVDとしたのですが、DVDでも容量はDVD-R片面1層で約4ギガバイト、両面2層で約16ギガバイトです。1コースの症例はできればDVD1枚に収めたいので、全面ではなく部分的に疑似フォーカスを追加した標本を予定しています。

皆様のご参加をお待ちしています。

バーチャルスライドシステムを用いた教育

および国際共同研究における画像共有

愛媛大学大学院医学系研究科病態解析学講座

ゲノム病理学分野 宮崎 龍彦

バーチャルスライドシステムは、その利便性から急速に普及してきています。多くの場合、外科病理標本のデジタルアーカイブ作製と遠隔病理・カンファレンス、医学教育に於ける学生実習用のツールとして用いられることが多いかと思われませんが、我々は研究においても海外の共同研究者との同一プレパラートの共有に用いています。実例を交えて簡単に報告したい

と思います。

私共の大学では、2007年にH社のNDPシステムを導入いたしました。この機種は、他のシステムに比べて、圧倒的な利点がありました。即ち、他の機種がベイヤー配列を用いた単板式CCDカメラで画像を取り込んでいたのに対し、この機種はプリズムにより3原色を分離して全ての画素の3原色情報を取り込むことができるラインセンサーを採用していたため、ベイヤー配列独特の偽色の発生や、シャープネス処理による不自然に硬い画像(=微細構造輪郭の捏造)が発生しないという原理的な利点があり、非常に自然な色合いで、解像度の高い画像を得ることができます。現在では他社でも3板式CCDカメラを搭載した機種が登場しつつあり、差は埋まってくるものと思われませんが、スキャンのスピードも考えると最も良い選択であったと自負しています。

さて、話は変わって共同研究における利用ですが、小生は2007年から2008年にかけてドイツ・ハイデルベルクのドイツ国立癌研究所で研究生活を送らせていただきました。しかし、滞在期間は必ずしも一つの研究を仕上げるには充分でなかったため、現在でも共同研究の形でプロジェクトを進行させています。病理形態学的な解析が必要となるテーマであったため、プレパラートをどう共有するかということがひとつの大きな問題となりました。そこで思いついたのがバーチャルスライド画像の共有という方法でした。最初先方にはバーチャルスライドシステムが導入されていなかったため、プレパラートを「コソリと」持ち帰り、こちらのバーチャルスライドシステムでデジタル化し、この画像をFTPサーバーにアップロードするとともに、DVDに焼いて次回渡独時にお土産として持っていきました。このシステムを用いることにより、日本とドイツで複数の研究者が同じプレパラートにおける病理組織学的パラメーターを評価することが簡単にできるようになりました。留学先の教授もこれを見て、すぐにバーチャルスライドシステムを購入しました。ただし、機種はドイツの代表的なメーカーのもの。ここで面白い比較ができました。全く同じプレパラートを両方の機種で取り込んで画像を比較したところ、顕微鏡を実際に覗いている人間による評価は日本製の圧倒的な勝利となりました。日本の技術は素晴らしい!

H社のシステムは大学ではまだ少数派ですが、現在我々はバーチャルスライドシステムによる講義システムを共同で開発しています。今後ともこのシステムを用いて教育・研究を充実させていこうと考えています。

九州がんセンターにおけるバーチャルスライドの利用

九州がんセンター病理診断科 西山 憲一

【はじめに】

当センターでは、2006年3月に浜松ホトニクス社のバーチャルスライドシステムを導入し、約4年が経過した。我々のそのシステムの利用法について紹介する。

【院内ネットワークにおける利用】

当センターを受診される患者さんの多くは、他の医療機関からの紹介患者さんである。そういった方は、紹介元のプレパラートを持参されることがしばしばである。それらはいずれ、元の医療機関に返却すべきものであるが、我々はそれらを再検討するとともに、バーチャル化し、保存している。バーチャル化した画像は、日常使用している病理診断システムとリンクさせ、手元の端末から簡単に参照できるようなシステムを構築した。これにより、例えば他院で生検され当センターで手術が行われた場合、手術標本の診断時において、簡単に生検標本を観察することができる。逆に、当センター生検、手術の症例では、プレパラートボックスまで、生検標本を探しにいかねばならず、むしろ他院生検のほうが、楽な場合も少なくない。

また、高価なデジタルカメラとしても有用である。臨床各科から顕微鏡写真の依頼があった場合、その症例の代表的なプレパラートをあらかじめバーチャル化しておけば、臨床医とともにモニターを観察しながら、ルーペ画像から強拡大画像まで、必要な画像を簡単にデータとして提供できる。

将来的には、院内のオーダーリング端末とも連携し、病棟、外来、医局でも、バーチャルスライドが閲覧できるように考えている。

【院外ネットワークにおける利用】

当センターの内規により、院内オーダーリングシステムとそれに接続している病理診断システムは、外部のインターネットと接続できない。このため、院外との連携のため、新たな独立したサーバーを設置した。

このサーバーのIPアドレスを伝えることにより、コンサルテーションシステムを構築した。現在は、九州大学、久留米大学、国立がんセンター、九州医療センターと連携がとれているのみで、まだまだ実験的な色合いが強い。また、我々自身、病理コンサルテーションとは、自分達より経験豊かな先輩病理医の知識に触れる機会であるので、礼をつくし、お手紙、HE、未染プレパラートを送付すべきものと考えており、インターネット上でのコンサルテーションには抵抗がある。そういった古風な？考えも、このバーチャルシステムで変わってくるのかもしれない。

ただ、確実なのは、このシステムが、各種研究会やスライドコンファレンスのプレパラート画像の公開を含め、非常に発展する可能性を持っているということである。

【最後に】

先日、我々の病理診断室の改装工事があり、それに伴いバーチャルスライドシステムが約1週間使用不能であった。その間、紹介元のプレパラートがバーチャル化できない、あらかじめバーチャル化した画像の閲覧もできない、臨床上に顕微鏡画像を渡せない等、予想以上に日常診断に不便をしいられた。

当センター病理診断科の日常診断において、バーチャルスライドシステムは、不可欠な存在となりつつあるようである。

バーチャルスライドの標準化について

独立行政法人国立国際医療研究センター 病院
臨床検査部病理 望月 眞

現在、日本病理学会は IHE (Integrating the Healthcare Enterprise) 協会に会員として参加しており、私はその委員をやっております。IHEは病院情報システム間の接続についてのガイドラインを作成しています。しかし、実際に情報システム間を接続する時には、IHEのガイドラインだけでは駄目で、DICOMやHL-7等の機関が作る標準規格も用います。

バーチャルスライドに関しては、現在DICOMで国際的な標準規格を作成中です。この規格はバーチャルスライドのデータ・フォーマットを決めるものです。これが決まると、このDICOMの標準規格に沿って作成されたバーチャルスライドのデータは、バーチャルスライド作成装置のメーカーに依存せずに標準のブラウザソフトで閲覧できるようになります。

(ftp://medical.nema.org/medical/dicom/supps/sup145_09.pdf)

また、IHE協会では、病理部門システム(病理診断システム)とバーチャルスライドの接続に関してのガイドライン作成にも取りかかろうとしています。バーチャルスライドを病理部門システムに関連付けて管理するやり方や、病理部門システムと関連したバーチャルスライドの参照の仕方などのガイドラインになると思われます。このガイドラインにより病理部門システムとバーチャルスライド作成装置の自由な組み合わせが可能になり、ユーザーの製品選択がより自由になるものと思われます。

詳細は<http://www.ncgm.go.jp/clin/pathol/meeting/VSandIHE.pdf>をご参照下さい。

電子カルテ(HIS)と病理部門システムとの接続に関して、IHEのガイドラインにのっとった形で接続するためのデータ内容の詳細を具体的に決めた国内の規格が日本保健医療情報システム工業会(JHIS)で出来ようとしています。これが決まることで、標準規格に沿った実際の製品がいろいろ現れるようになると思われます。

IHEの解説は<http://jsp.umin.ac.jp/committee/IHE/ihe01.html>にありますのでご参照下さい。

皆様にはこうした標準化の方向を意識しながら、今後VSを使っただければと思います。

== 私の趣味 =====

「病理医オケ」の実現に向けて

川崎医科大学病理学1 秋山 隆

来年の創立100周年記念事業の1つとして現在「日本病理学会管弦楽団」による祝賀演奏を計画しており、私も指揮者の一人という立場から実行委員として準備を進めております。聞くところによりますと、欧州病理学会では病理医オケの演奏があるそうですし、国内でも脳神経外科学会のオケは伝統も古く学会毎に活発な演奏活動がなされているようです。

第100回総会まで約1年となり準備を本格化しようというところ

で、今回の「私の趣味」の原稿依頼をお受けした次第です。私は現在、岡山大交響楽団と保科アカデミー室内管弦楽団の指揮をしています。前者は60年近い歴史と常時100名を超える規模の全学のサークルで、私が学生指揮者をしていた1987年の第2回全日本大学オーケストラコンクール(主催:ソニー音楽文化振興財団)では第1位を獲得しました。(ちなみに東京でのコンクール当日に行われた生理学の追試を受けなかったことが主たる原因で1年留年しましたが全く後悔はありません。むしろ留年したお蔭で当時新任であった岡田茂教授の大学院に進むことができ、こうして病理医になりました!)その岡大オケを45年に亘って指揮・指導して下さっているのが保科洋先生で、吹奏楽の分野では世界的にも有名な作曲家です。後者は岡大オケのOBによって組織されていますが、名称はお分りの通り恩師の名前に由来しています。前者は年2回の演奏会を中心に活動していますが5年毎に大阪公演を行っています。後者は年に一度の演奏会ですが県内各地で複数公演を行います。昨年創立15周年を迎えましたが過去に3度の東京公演を開催しました。私は現在までに保科先生の管弦楽作品の世界初演の指揮を、前者と後者とで合計10曲行っています。初演の指揮というのは通常以上に大変ですが、やりがいも大きくその達成感はひとしおです。

楽譜を読み込んで解釈したり、練習中に不具合や間違いを指摘したりするのは、標本を見ながら病態を推測したり、病的所見を探すと似た部分があると思います。指揮者としても病理医としても、まだまだ未熟ですが、何とかバランスよく両方の修業を続けていきたいと考えています。岡田教授はじめ現在の上司である定平教授、濱崎教授、並びに当院病理部のスタッフの方々のご理解ご協力のお蔭で今まで続けることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

来年の病理医オケで心をこめた演奏をすることで、記念の学会に花を添えたいと思います。実行委員の一人として、深山教授はじめ学会の諸先生方のご理解ご協力について感謝しております。一緒に演奏して下さる先生方、どうぞよろしくお願いたします。最後に甚だ僭越ではございますが、演奏に参加するメンバーの上司並びに同僚の先生方におかれましては、病理医オケの練習や本番当日には何卒格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

== 支部報告 == 北海道支部

北海道支部編集委員 佐藤 昌明

北海道病理医会代表者会議および総会報告

平成22年3月13日(土)に標本交見会に先立ち、北大医学部第3講堂において北海道病理医会代表者会議および総会が開催された。以下の事項に関し報告・討議がなされ、承認された。

1. 平成21年度北海道病理医会活動報告

- 1) 会員: active会員は125名、施設会員は45施設となった。

- 2) 学術集会: 北大病院病理部、松野吉宏教授を担当幹事として6回の標本交見会が開催された。一般演題は30題、特別講演は1題であった。

3) 共催事業:

- ・日本臨床細胞学会北海道支部との共催セミナー。
- ・日本臨床細胞学会北海道支部の細胞診講習会の支援。
- ・第6回病理夏の学校の支援。

- 4) 北海道内の病理診断支援網の構築・運用に関する取り組み:

- ・北海道保健福祉部への企画提案書「北海道内の遠隔病理診断支援ネットワークの構築」の提出。

- ・フォーラム「北海道の病理診断網を考える」の開催(北大病院病理部との共催)。

- ・バーチャルスライドシステムの利用に関するアンケートへの協力。

5) 平成21年度会計中間報告

2. 平成22年事業計画

- 1) 学術集会: 標本交見会担当幹事には札幌医科大学第2病理、澤田典均教授が選出された。5/15、7/24、9/11、11/13、1/22、3/12のいずれも土曜日、札幌医科大学臨床教育研究棟2階、臨床第一講義室で開催予定。

- 2) 共催事業: 細胞診講習会、フォーラム「北海道の病理診断網を考える」、第7回病理夏の学校など。

- 3) Ad hoc WGの設置により病理医会活性化のための企画提案を促進する。

日本病理学会北海道支部拡大会議報告

平成22年3月14日(土)に北大医学部第3講堂において日本病理学会北海道支部拡大会議が開催され、北海道病理医会、北海道病理談話会、日本病理学会北海道支部の各担当幹事から事業報告や会計報告がなされ承認された。

- 1) 北海道病理談話会会計報告が承認された。

- 2) 第6回病理夏の学校会計報告が承認された。

- 3) 平成22年度日本病理学会北海道支部役員の追加。

- 4) 平成22年度標本交見会の日程、会場が報告された。

- 5) 平成22年度北海道病理談話会は北大腫瘍病理の田中伸哉教授を会長として平成22年10月30日に開催されることが決まった。

- 6) 第7回病理夏の学校が旭川医大第二病理、立野正敏教授を世話人として平成22年9月25-26日に開催されることが決まった。

- 7) 平成23年度北海道病理談話会の会長に旭川医大第一病理の西川祐司教授が選出された。

- 8) 日本病理学会北海道支部会員数は182名、病理学会認定施設数は25施設、病理学会登録施設数は20施設となった。

学術活動報告

第139回標本交見会が平成22年1月23日(土)に、第140回標本交見会が平成22年3月13日(土)にそれぞれ北大医学部第3講堂においてにて北大病院病理部、松野吉宏教授を担当幹

事として開催された。以下に第139回および第140回標本交見会の症例を記載する。

第139回

- 番号／発表者(所属)／演題名／年齢・性別／最終診断
- 09-21／藤田裕美 (KKR札幌医療センター病理診断科)／
特異な組織像を示した眼瞼腫瘍／60代・男性／
Endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma
- 09-22／柳内 充(市立旭川病院中央検査科病理)／
中耳に発生した腫瘍の一例／50代・男性／Adenoma of middle ear
- 09-23／菅野宏美(北大医学部腫瘍病理学)／
中年女性に発生した頭蓋底腫瘍の一例／40代・女性／Atypical meningioma
- 09-24／山田洋介(北大病院病理部)／
左中指腫瘍の1例／50代・男性／Onychomatricoma
- 09-25／計良淑子(札幌医大病院病理部)／
稀な十二指腸腫瘍の一例／50代・男性／
Well differentiated adenocarcinoma, gastric type
- 09-26／池田 仁(函館中央病院病理診断科)／
非ホジキンリンパ腫の化学療法後に劇症肝炎を発症し死亡した症例／60代・
男性／Fibrosing cholestatic hepatitis, de novo HBV-related hepatitis
- 09-27／高橋利幸(北海道消化器科病院病理部)／
緊急手術が施行された虚血性腸炎の一症例／70代・男性／
Churg-Strauss syndrome

第140回

- 09-28／計良淑子(札幌医大病院病理部)／
稀な下咽頭腫瘍の一例／30代・女性／Myoepithelial carcinoma, spindle cell
type
- 09-29／立野正敏(旭川医大免疫病理)／
リンパ節腫大に汎血球減少症を来した一例／60代・女性／
IgG4-related lymphadenopathy
- 09-30／久保田佳奈子(北大病院病理部)／
画像にて右腎腫瘍が疑われた後腹膜腫瘍の一例／70代・女性／
Sclerosing PEComa(sclerosing angiomyolipoma)

東北支部

東北支部広報委員会委員長 鬼島 宏

第70回日本病理学会東北支部総会/役員会が、下記の要旨で開催された。平成21年2月13日(土)東北大学良陵会館。

報告事項

1. 第70回支部学術集会の概要について(本山)
2. 第69回支部学術集会について(阿部)
3. 各種委員会報告

総務・財務(渡辺)、学術委員会(増田)、業務委員会(方山)、広報委員会(鬼島)、ホームページ(千場)。

4. 平成21年度日本病理学会秋期総会について(本山)
5. その他

保険点数改定(方山):厚生労働省ホームページに掲載されている。第6回病理夏の学校について、2011年は岩手医科大学が担当予定。

協議事項

1. 第69回支部学術集会の決算について(阿部)
2. 第71回支部学術集会について(本山)
2010年7月17日～18日、山形。教育講演:皮膚病理A,B,C(泉 美貴先生、東京医科大学)
3. 第72回支部学術集会について(本山)
2011年2月11日～12日、仙台

4. 第73回支部学術集会について

2011年7月、宮城県の前定

(東北支部、夏の学術集会開催順: 秋田県→(函館)→新潟県→岩手県→青森県→福島県→山形県→宮城県)

5. メーリングリストについて(渡辺)

6. 支部ホームページについて(渡辺)

7. パーチャルスライドの取り扱いについて(渡辺)

8. その他

第70回日本病理学会東北支部学術集会在、下記の要旨で開催された。

平成22年2月13日(土)～14日(日)東北大学良陵会館

特別講演1:医療関連死に関わる諸問題-1. 病理の立場から

(演者 黒田 誠、藤田保健衛生大学)

特別講演2:医療関連死に関わる諸問題-2. 法医の立場から

(演者 山内春夫、新潟大学)

ランチョンセミナー1:HER2検査ガイド 第三版について

(演者 津田 均、国立がんセンター中央病院)

ランチョンセミナー2:病理標本を用いた大腸がん分子標的診断

(演者 落合淳志、国立がんセンター東病院)

一般演題: 31題

各演題ともに、活発なかつ有意義な討議が行われた。

(一般演題一覧などは、次号掲載予定)

関東支部

関東支部編集委員 上田 善彦

学術活動報告

平成22年3月27日(土)に昭和大学1号館7階講堂にて、第46回日本病理学会関東支部学術集会(世話人:昭和大学太田秀一)が開催されました。当日は122名の参加があり、特別講演2題と一般演題4題について活発な討議が行われました。

特別公演

1. テネインc- 心筋組織構築変化における分子機能と診断・治療への応用

今中恭子(三重大学大学院医学研究科 修復再生病理学)

座長:石井壽晴(東邦大学 病理学)

2. 心筋症について

植田初江(国立循環器病センター 病理)

座長:田中道雄(東京都立広尾病院 検査科)

一般演題

1. 高齢者のβミオシン重鎖遺伝子コドン870変異による家族性肥大型心筋症

新井富生, 沢辺元司, 玉橋うらら, 千田宏司*, 木村彰方** (東京都健康長寿

医療センター病理診断科, 大田病院内科*, 東京医歯大難治研**)

座長:河村俊治(東京女子医科大学 第1病理)

2. 癌性髄膜炎と思われたatypical teratoid/rhabdoid tumorの成人例

長嶋洋治, 工藤洋祐*, 野宮 環*, 城倉 健*, 黒岩義之**, 青木一郎, 平戸純子

*** (横浜市立大学大学院医学研究科分子病理学 平塚共済病院神経内科*

横浜私立大学大学院医学研究科神経内科学** 群馬大学医学部附属病院病理部***)

座長:澤田達男(東京女子医科大学 第1病理)

3. Wolfian adnexal tumor の一例

中嶋隆彦, 木原淳, 田島将吾, 村田建一郎, 松谷章司, 堀内啓(NTT東日本

関東病院病理診断部)

座長:九島巳樹(昭和大学病理診断科)

4. 肝原発腺扁平上皮癌の一例

福島慎太郎, 尾島英知*, 笹島ゆう子, 平岡伸介*, 吉田正行, 江崎稔**, 九嶋

亮治, 津田均(国立がんセンター中央病院病理、国立がんセンター中央病院

研究所病理部*, 3国立がんセンター中央病院肝胆腫瘍外科**)

座長:国村利明(昭和大学第1病理)

第47回日本病理学会関東支部総会および学術集会

期日:2010年6月12日(土)12:45~17:00

会場:群馬大学医学部 刀城会館(医学部同窓会館)

群馬県前橋市昭和町3-39-22 電話027-220-7982

交通:JR前橋駅からバスで約15分

世話人:小山徹也教授(群馬大学医学系研究科病理診断学)

テーマ:前立腺癌の病理診断

(改訂前立腺癌取り扱い規約の解説を含めて)

【総会】 12:45~13:25

【特別講演】 13:30~15:00

前立腺癌の病理診断(改訂前立腺癌取り扱い規約の解説を含めて)

1. 第4版前立腺癌取り扱い規約について(仮)
群馬大学大学院泌尿器科学 鈴木和弘教授(規約委員会 副委員長)
2. 第4版前立腺癌取り扱い規約における病理改訂のポイント(仮)
杏林大学病理学 坂本彦彦教授(規約委員会 病理委員長)
3. 取り扱い規約にけるGleason分類・前立腺癌と放射線治療(仮)
慈恵会医科大学病理学 鷹橋浩幸准教授(規約委員会 病理委員)

【標本供覧】 12:00~16:00

【一般演題】 15:15~17:00

【懇親会】 17:15~18:30

一般演題(症例検討を含む)を4~5題募集します。テーマに関連したものでなくても、診断困難な症例、希少症例、教育的症例、臨床研究など奮ってご応募ください。

演題募集要領: 発表はWindows XP (Power Point 2003)による投影のみとします。演題名、発表者氏名ならびに所属を明記のうえ、演題要旨(400字以内)を添えて、電子メールにてお申し込みください。要旨はMS Word 2003ないしテキスト形式で作成し、メールに添付してください。演題申込締め切り:2010年5月28日(金)。申込先: 群馬大学医学系研究科病理診断学、小山徹也 まで。 E-mail:oyama@med.gunma-u.ac.jp

電話: 027-220-7982 Fax:027-220-7981

プログラム・抄録は関東支部ホームページに掲載される予定です。なお、幹事会を11:00~12:00に刀城会館会議室で開催予定です。幹事、監事及び関係の方々はお出席願います。

第54回埼玉病理医の会

期日:2010年2月27日(土)

会場:さいたま市民医療センター 2階大会議室

世話人:さいたま市民医療センター病理診断科 内間久隆

参加者人数:25名

症例検討:

出題者所属・氏名/年齢・性/臓器/臨床診断(問題点)/病理診断

- 1)埼玉県立循環器呼吸器病センター 河端美則/50歳代・女性/咳・痰で受診、多発性浸潤影を認め肺炎として治療するも結節影出現、診断のためVATS/Wegener肉芽腫症と診断した。P-ANCA上昇とタンパク尿があるので、全身性のWGの可能性大
- 2)さいたま赤十字病院 安達章子/40歳代・男性/右眼窩腫瘍/epithelioid hemangioma (angiolympoid hyperplasia with eosinophilia)。木村病との鑑別。
- 3)済生会川口総合病院 伴 慎一・佐藤英章/70歳代・女性/総胆管腫瘍/undifferentiated carcinoma with osteoclast-like giant cells。周囲に認められた低乳頭状粘液上皮性病変に関して議論。
- 4)自治医科大学附属さいたま医療センター 野首光弘、宗雪年孝/70歳代・男性/間質性肺炎の臨床診断でTBLB/EGFR遺伝子欠損を認めたいわゆるdiffuse BACで、核内封入体のあるnon-mucinousな腫瘍細胞が両肺から生検さ

れた例。

- 5)さいたま市民医療センター 内間久隆/80歳代・女性/大腸生検組織/collagenous colitisの組織所見と考えられたが下痢症状はなし。PPIおよびNSAIDsの服用歴あり。
- 6)済生会川口総合病院 伴 慎一/70歳代・男性/胃ポリープEMR/内視鏡的に径1.5 cmの山田Ⅲ型ポリープで表面は乳頭状。胃固有腺型の超高分化腺癌。粘膜下組織浸潤に関して議論。

中部支部

中部支部編集委員 福留 寿生

第13回日本病理学会中部支部スライドセミナーが、3月20日に福井大学医学部附属病院病理部、今村好章先生のお世話で開催されました。

講演1.「腎腫瘍の分類総論(病期、組織、異型度)、比較的高頻度に見られる腎上皮性腫瘍(淡明細胞癌、乳頭癌、色素嫌性癌、オンコサイトーマ)」

君津中央病院 松寄 理 先生(座長:富山県立中央病院 寺畑 信太郎 先生)

講演2.「比較的多発な上皮性腎腫瘍(MTSCC、転座腎癌、透析腎癌、集合管癌、後腎性腫瘍 他)」

高知赤十字病院 黒田 直人 先生

(座長:福井大学医学部附属病院 今村 好章 先生)

講演3.「注意すべき非上皮性、混合型腎腫瘍、知っておくべき小児腎腫瘍、遺伝子異常のわかっている腎腫瘍」

横浜市立大学大学院 長嶋 洋治 先生 (座長:金沢医科大学 湊 宏 先生)

症例検討会

コメンテーター:松寄 理先生、長嶋 洋治先生、黒田 直人先生(座長:車谷 宏先生(石川県立中央病院)、法木 左近 先生(福井大学医学部))

(以下、症例番号、提示施設、供覧者(筆頭)、供覧者の診断 の順)

S2010-1 藤田保健衛生大学、北川 諭、angiomyolipoma

S2010-2 富山県立中央病院、内山明央、carcinoid

S2010-3 信州大学、浅香志穂、epithelioid angiomyolipoma

S2010-4 厚生連高岡病院、松井一裕、renal capsular tumor, extrapulmonary lymphangioliomyoma (angiomyolipomaでもよいのではというコメントあり)

S2010-5 福井大学、今村好章、acquired cystic kidney-associated renal cell carcinoma

中部支部・東海病理医会 検討症例報告

第246回

(平成21年11月21日参加者11名於:藤田保健衛生大学)

症例番号 病院名 病理医 年齢(歳代) 性 臓器

臨床診断 病理組織学的診断

4010 新城市市民病院 黒田 誠 70 女 腎 腎癌 Angiomyolipoma

4011 藤田保健衛生大学 桐山諭和 70 男 陰囊 悪性黒色腫

Apocrine carcinoma

4012 浜松赤十字病院 安見和彦 70 女 皮膚 皮膚腫瘍

Dendritic cell tumor

4013 藤田保健衛生大学 北川 諭 60 女 骨 頸椎腫瘍

Follicular dendritic cell sarcoma

4014 藤田保健衛生大学 北川 諭 70 男 膵 膵頭部癌

IgG-4 related sclerosing pancreatitis

4015 浜松赤十字病院 安見和彦 30 男 胆管 下部胆管癌

Sclerosing cholangitis

4016 藤田保健衛生大学 北川 諭 70 女 胸腺 胸腺腫

Thymoma type AB

4017 藤田保健衛生大学 北川 諭 50 男 肺 肺腫瘍 Typical carcinoid

4018 藤田保健衛生大学 高桑康成 50 女 乳腺 乳頭部腫瘍

Nipple adenoma

4019 トヨタ記念病院 高桑康成 20 女 乳腺 葉状腫瘍 Hamartoma

4020 江南厚生病院 福山隆一 30 男 上顎洞 上顎洞腫瘍

Myofibroblastic tumor

- 4021 江南厚生病院 福山隆一 70 女 小脳 小脳腫瘍
Anaplastic pilocytic astrocytoma
- 4022 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 30 女 子宮 子宮体癌疑い
Endometriosis
- 4023 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 女 肺 肺癌疑い
Foreign body granuloma
- 4024 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 70 女 胃 早期胃癌
Intramucosal invasive micropapillary carcinoma

第247回

(平成21年12月19日参加者14名於:藤田保健衛生大学)

- 4025 蒲郡市民病院 浦野 誠 30 女 リンパ節 リンパ節炎
Reactive lymphadenitis
- 4026 藤田保健衛生大学 浦野 誠 70 男 耳下腺 耳下腺腫瘍
MALT lymphoma
- 4027 藤田保健衛生大学 浦野 誠 70 男 喉頭 声門部癌
Spindle cell carcinoma
- 4028 藤田保健衛生大学 桐山論和 60 男 睪 IPMC
Serous cystadenoma
- 4029 藤田保健衛生大学 北川 論 50 女 腎 腎腫瘍
Angiomyolipoma
- 4030 藤田保健衛生大学 北川 論 50 女 卵巣 卵巣腫瘍
Metastatic adenocarcinoma
- 4031 豊田地域医療センター 北川 論 60 男 直腸 直腸腫瘍
Adenocarcinoma arising in hamartomatous polyp
- 4032 六輪病院 黒田 誠 90 女 直腸 直腸ポリープ
Tubulovillous adenoma with malignant lymphoma
- 4033 東市民病院 鈴木周五 20 女 卵巣 卵巣腫瘍
Ependymoma in mature teratoma
- 4034 江南厚生病院 福山隆一 60 男 皮膚 皮膚腫瘍
Dermatofibrosarcoma protuberance
- 4035 江南厚生病院 福山隆一 30 女 甲状腺 甲状腺腫瘍
Papillary carcinoma
- 4036 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 40 女 卵巣 卵巣腫瘍
Mature teratoma
- 4037 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 80 女 回盲部 回盲部癌
Primary medullary carcinoma
- 4038 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 女 尿管 尿管癌
Sarcomatoid carcinoma
- 4039 小牧市民病院 栗原恭子 60 女 子宮 子宮筋腫
High grade sarcoma

第248回

(平成22年1月16日参加者19名於:藤田保健衛生大学)

- 4040 藤田保健衛生大学 北川 論 80 女 皮膚 悪性黒色腫疑い
Porocarcinoma
- 4041 トヨタ記念病院 北川 論 50 女 皮膚 悪性黒色腫疑い
Verrucous malignant melanoma
- 4042 藤田保健衛生大学 北川 論 20 女 腎 腎腫瘍 Angiomyolipoma
- 4043 愛知県がんセンター愛知病院 高桑康成 20 男 肋骨 軟骨肉腫疑い
Osteosarcoma probably dedifferentiated
- 4044 藤田保健衛生大学 高桑康成 40 女 肝 肝内胆管癌
Intraductal papillary neoplasm of the bile duct
- 4045 藤田保健衛生大学 浦野 誠 50 女 甲状腺 甲状腺癌
Sclerosing mucoepidermoid carcinoma
- 4046 新城市民病院 浦野 誠 80 女 舌 舌腫瘍疑い MALT lymphoma
- 4047 新城市民病院 黒田 誠 80 男 精巣 精巣腫瘍
Angiodysplasia with leiomyomatous change
- 4048 江南厚生病院 福山隆一 70 男 脳 脳腫瘍 Meningioma
- 4049 江南厚生病院 福山隆一 40 男 皮膚 皮膚腫瘍
Skin appendage tumor
- 4050 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 60 女 乳腺 乳癌
Tubular adenoma with marked metaplasia
- 4051 鈴鹿中央総合病院 村田哲也 50 女 癌窩 悪性リンパ腫疑い

IgG-4 related lesion

- 4052 静岡赤十字病院 笠原正男 60 女 腎 腎腫瘍 Paraganglioma
- 4053 静岡赤十字病院 笠原正男 40 女 総頸動脈 動脈瘤
Takayasu arteritis

近畿支部

近畿支部編集委員 大山 秀樹

1. 学術集会報告

平成22年2月27日(土曜日)に大阪市立総合医療センターに於きまして、第48回日本病理学会近畿支部学術集会(世話人:奈良県立医科大学病理病態学講座 小西 登教授、モデレーター:大阪市立総合医療センター 井上健先生)が「非腫瘍性腎疾患」をテーマとして開催されました。

以下に、プログラムを掲載いたします。(なお、検討症例、画像等につきましては、http://jspk.umin.jp/reg-meetings/2009reg-meeting/48th_Osaka_100227/48th_Program.htmで閲覧可能です。)

症例検討

座長:森 一郎 先生(和歌山県立医科大学)

- 740 唾液腺腫瘍の1例
藤本 正数 先生 他(財団法人 田附興風会 北野病院 臨床病理部 他)
- 741 臍・子宮内膜腫瘍の一例
宋 美紗 先生 他(東住吉森本病院 病理診断科 他)
- 742 肝腫瘍の一例
田所 知佳 先生 他(関西医科大学附属枚方病院 病理部)
- 743 成人T細胞性白血病の経過中に左室内巨大血栓をきたした一例
西尾 真理 先生 他(神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科)
- 744 乳腺腫瘍の2例
平野 博嗣 先生、他(新日鐵広畑病院 病理科)
- 招聘講演「病理診断科と医療機関外における病理診断:何をどう変えていくべきか、答えはあるのか?」
稲山 嘉明 先生(横浜市立大学附属病院 病理診断科・病理部)
座長:横崎 宏 先生(神戸大学)
- 特別講演:「原発性糸球体疾患の病理:腎生検光顕診断のいとぐち」
城 謙輔 先生(仙台社会保険病院 病理部)
座長:小西 登 先生(奈良県立医科大学)
- 「胃癌取り扱い規約、グループ分類の変更について」
石黒 信吾 先生(PCL大阪 病理・細胞診センター)

病理講習会:「非腫瘍性腎疾患」

座長:井上 健 先生(大阪市立総合医療センター)

- 慢性腎臓病の臨床 ~蛋白尿、血尿から腎生検、さらに治療に至る腎臓内科医の考え方
小西 啓夫 先生(大阪市立総合医療センター 腎臓高血圧内科)
 - 腎生検でみられるループス腎炎の組織像とその鑑別
岡 一雅 先生(大阪回生病院 病理部)
 - 腎生検で見られる糖尿病性腎症の所見とその鑑別疾患
浦崎 晃司 先生(大津市民病院 臨床検査・病理)
座長:辻 求 先生(大阪医科大学)
 - 移植腎の臨床と病理 ?これまでの流れと最近のトピックス?
京 昌弘 先生(桜橋医誠会クリニック)
 - 遺伝性腎症 (Alport症候群、菲薄基底膜腎症)の病理
井上 健 先生(大阪市立総合医療センター 病理部)
- 病理診断困難症例の解説
座長:橋本 公夫 先生(西神戸医療センター)
- 後腎線維腺腫の一例
桑江 優子 先生、他(大阪市立大学医学部附属病院 病理部)
 - 腎明細胞肉腫との鑑別が問題となった先天性間葉芽腎腫の1例
福島 裕子 先生、他(大阪市立総合医療センター 病理部)

2. 今後の開催予定

次回学術集会

第49回 日本病理学会近畿支部学術集会

日時:平成22年5月15日(土)

場所:大阪市立総合医療センター

世話人:村垣 泰光 教授 (和歌山県立医科大学)

テーマ:頭頸部の疾患

モデレーター:植村芳子(関西医科大学)、
西川哲成(大阪歯科大学)

中国・四国支部

中国・四国支部編集委員 藤原 恵

A. 開催報告

1. 第101回学術集会

開催日:平成22年2月20日(土)

場所:岡山大学医学部 臨床第一講義室

世話人:岡山大学病院 病理診断科・病理部

柳井 広之准教授

大きな節目であった第100回が終わり、新たな段階の始まりである第101回が開催され、24演題と比較的多くの演題が集まった。発表スライドや投票結果は

<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>から見る事が出来る。

演題番号/タイトル/出題者(所属)/出題者診断/最多投票診断

S2257/頭蓋内腫瘍/万代光一(東広島医療センター臨床検査科)/

So-called xanthogranuloma of non-Langerhans cell histiocytosis involving meninges of brain (consistent with Erdheim-Chester disease)
/Xanthogranuloma

S2258/骨髄腫瘍/工藤英治(徳島大学大学院人体病理学)/

Plasmablastic transformation of multiple myeloma/Malignant lymphoma

S2259/後頭部皮膚病変/内野かおり(倉敷中央病院病理検査科)/

Scarring alopecia due to folliculitis decalvans/Folliculitis

S2260/上顎腫瘍/片瀬直樹(岡山大学大学院口腔病理学)/

Ameloblastic carcinoma, primary type/Ameloblastic carcinoma

S2261/口蓋腫瘍/小川郁子(広島大学病院口腔検査センター)/

Acinic cell carcinoma/Mucoepidermoid carcinoma

S2262/唾液腺腫瘍/増田 渉(倉敷中央病院病理検査科)/

Cystadenoma/Acinic cell carcinoma

S2263/左耳下腺腫瘍および左頬粘膜腫瘍/荒木亜寿香(島根大学医学部器官病理学)/ Acinic cell carcinoma/concord

S2264/耳下腺腫瘍/河野裕夫(山口大学大学院病理形態学)/

Lymphadenoma/concord

S2265/心臓腫瘍/小川博久(徳島大学大学院環境病理学)/

Cardiac myxoma, petrified/concord

S2266/心臓腫瘍/松浦博夫(広島市立広島市民病院病理部)/

Papillary fibroelastoma/concord

S2267/肺病変/渋谷信介(香川大学医学部附属病院病理部)/

Light chain deposition disease/concord

S2268/胸腺腫瘍/松本 学(高知大学医学部附属病院病理診断部)/

Adenosquamous carcinoma/Thymoma, type A

S2269/左乳腺腫瘍/小野寺正征(香川大学医学部炎症病理学)/

Metaplastic carcinoma/Carcinoma with cartilaginous and/or osseous metaplasia

S2270/大腿部腫瘍/河内茂人(山口大学大学院分子病理学)/

Synovial sarcoma/concord

S2271/大腿部腫瘍/天野知香(島根大学医学部病態病理学)/

Malignant fibrous histiocytoma, inflammatory/concord

S2272/腸骨腫瘍/倉岡和矢(呉医療センター・中国がんセンター病理診断科)/
Fibrosarcoma/concord

S2273/肝腫瘍/藤井将義(広島大学病院病理診断科)/

Intrahepatic cholangiocarcinoma, clear cell/concord

S2274/肝腫瘍/木村安曇(鳥取県立中央病院病理診断科)/ Mixed

acinar-endocrine carcinoma with AFP-production/Hepatocellular carcinoma

S2275/腎腫瘍/黒田直人(高知赤十字病院・病理診断科部)/

Renal cell carcinoma, clear cell carcinoma with renal angiomyoadenomatous

tumor-like area/Renal cell carcinoma, clear cell carcinoma

S2276/副腎腫瘍/戸田博子(岡山大学大学院腫瘍病理学)/

Solitary fibrous tumor/concord

S2277/左卵巣腫瘍/寺本典弘(四国がんセンター病理科)/

Sex cord tumor with annular tubules/Mucinous cystadenoma

S2278/下大静脈内腫瘍/神農陽子(岡山医療センター臨床検査科)/

Intravenous leiomyomatosis/concord

S2279/子宮体部腫瘍/中山宏文(広島鉄道病院臨床検査室)/

Adenomatoid tumor/concord

S2280/子宮腫瘍/坂本直也(広島大学大学院分子病理学)/

Mitotically active leiomyoma/concord

B. 開催予定

1. 第102回学術集会

開催日:平成22年7月17日(土)

世話人:鳥取大学医学部器官病理学 井藤 久雄 教授

会場:鳥取大学医学部

内容:スライドカンファレンス

2. 第103回学術集会

開催日:平成22年11月頃

世話人:呉共済病院・佐々木なおみ部長

会場:呉共済病院

内容:スライドカンファレンス

九州・沖縄支部

九州大学形態機能病理 小田 義直

第313回九州・沖縄スライドカンファレンスが下記のように開催されました。

日時:平成22年1月23日

場所:鹿児島大学 稲盛会館

世話人:鹿児島大学大学院

医歯学総合研究科分子細胞病理学 谷本 英昭 教授

医歯学総合研究科人体がん病理学 米澤 傑 教授

参加人数:121名

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/

出題者診断/投票最多診断(投票数38)

1/ 馬場貴/ 宮崎大学腫瘍・再生病態学/ 90代/ 女/ 口腔内/

Basaloid squamous cell carcinoma/ Basaloid squamous cell carcinoma

2/ 安里嗣晴/ 熊本大学病院病理部/ 60代/ 女/ 鼻涙管/

Oncocytoma/ Oncocytoma

3/ 大石純/ 福岡大学病理/ 60代/ 女/ 鼻腔内/

Sinonasal teratocarcinoma/ Malignant peripheral nerve sheath tumor

4/ 石原園子/ 熊本大学病院病理部/ 乳児/ 女児/ 咽頭/

Heterotopic central nervous system tissue/ Immature teratoma

5/ 稲永清子、中野龍治/ 九州厚生年金病院/ 60代/ 女/ 肺/

Synovial sarcoma/ Sclerosing hemangioma

6/ 平木 翼/ 鹿児島大学人体がん病理学/ 60代/ 男/ 胃/

Enteropathy associated T-cell lymphoma, type 2/ Malignant lymphoma, NOS

- 7/ 長田美佳子/ 九州大学形態機能病理/ 40代/ 女/ 十二指腸/
Lipoma with Brunner's gland hyperplasia/ Hamartoma, NOS
- 8/ 本田 由美/ 熊本大学病院病理部/ 10代/ 男/ 回腸/
Heterotopic gastric mucosa without Meckel's diverticulum/
Meckel's diverticulum
- 9/ 實藤隼人/ 北九州総合病院/ 70代/ 男/ 胆管/
Autoimmune IgG4 related cholangitis/ IgG4-related sclerosing cholangitis
- 10/ 山田 壮亮/ 産業医大二病理/ 70代/ 女/ 副腎/
Non functioning cortical adenoma with endothelial cysts and myelolipomatous
metaplasia/ Adrenocortical adenoma with myelolipoma
- 11/ 鮫島 直樹/ 宮崎大学構造機能病態学/ 50代/ 女/ 腎/
Adenosarcoma/ Sarcomatoid renal cell carcinoma
- 12/ 神尾 多喜浩/ 済生会熊本病院/ 50代/ 男/ 腎/
Undifferentiated pleomorphic sarcoma/ Undifferentiated pleomorphic sarcoma
- 13/ 島尾 義也/ 県立宮崎病院/ 60代/ 女/ 腎盂/
Well differentiated squamous cell carcinoma of the renal pelvis/
Squamous cell carcinoma, NOS
- 14/ 二村 聡/ 福岡大学病理/ 50代/ 女/ 尿管/ Endometriosis/ Endometriosis
- 15/ 大西 紘二/ 熊本大学細胞病理/ 60代/ 女/ 外尿道口/
Malignant melanoma of the vulva/ Malignant melanoma
- 16/ 武内 照生/ 九州労災病院/ 10代/ 男/ 傍精巣/
Rhabdomyosarcoma, embryonal type/ Rhabdomyosarcoma, NOS
- 17/ 西俣 伸亮/ 福岡大学筑紫病院/ 40代/ 女/ 後腹膜/
Castleman's disease, hyaline-vascular type/ Castleman's disease, NOS
- 18/ 渡辺 次郎/ 八女公立病院/ 40代/ 女/ 頭蓋内/
Microcystic meningioma with intermixed with angiomatous variant/
Angiomatous meningioma

第314回九州・沖縄スライドコンファレンスが引き続き下記のように開催されました。

日時: 平成22年3月13日

場所: 大分市 アルメイダ研修会館5階

世話人: 大分市医師会立アルメイダ病院 蒲池 綾子 先生

参加人数: 80名

症例番号/出題者/所属/患者年齢/患者性別/部位/
出題者診断/投票最多診断(投票数30)

- 1/ 的野 浩士/ 飯塚病院/ 60代/ 女/ 口腔/
Canalicular adenoma/ Canalicular adenoma
- 2/ 渡辺 次郎/ 公立八女病院/ 70代/ 女/ 胃/
Tubular adenocarcinoma in pyloric gland adenoma/
Adenocarcinoma in heterotopic pancreatic tissue
- 3/ 石原 明/ 県立延岡病院/ 70代/ 女/ 回腸/
ANCA-related angitis/ ANCA-related angitis
- 4/ 島松 一秀/ 大牟田市立総合病院/ 70代/ 肝/
Lymphoepithelioma-like carcinoma/ Inflammatory pseudotumor
- 5/ 猪山 賢一/ 熊本大学病院病理部/ 10代/ 男/ 肝/
Hepatic angiomyolipoma/ Angiomyolipoma
- 6/ 廣石 和章/ 大分大学病理学講座第一/ 70代/ 男/ 膵臓/
Autoimmune pancreatitis/ IgG4-related sclerosing disease
- 7/ 本田 由美/ 熊本大学病院病理部/ 80代/ 男/ 前立腺・尿道/
Ductal adenocarcinoma of the prostate/ Ductal adenocarcinoma
- 8/ 安里 嗣晴/ 熊本大学病院病理部/ 70代/ 男/ 精巣/
Spermatocytic seminoma/ Spermatocytic seminoma
- 9/ 梅津 大輔/ 九州労災病院/ 70代/ 男/ 傍精巣/
Pleomorphic rhabdomyosarcoma/ Rhabdomyosarcoma, NOS
- 10/ 栗原 秀一/ 浜の町病院/ 50代/ 女/ 子宮/
Endocervicosis of the cervix/ Minimal deviation adenocarcinoma
- 11/ 神尾 多喜浩/ 済生会熊本病院/ 60代/ 男/ 脾臓/
Phlebitis obliterans due to autoimmune pancreatitis/
Phlebitis obliterans (IgG4-related)
- 12/ 瀬川 芳恵/ 福岡大学病理学/ 30代/ 女/ 腹膜/
Leiomyomatosis peritonealis disseminata/

- Leiomyomatosis peritonealis disseminata
- 13/ 河野 真司/ 原三信病院/ 60代/ 男/ 腹腔/
GIST, epithelioid, high-risk group/ GIST, NOS
- 114/ 竹内 正久/ 九州大学形態機能病理学/ 50代/ 女/ 後腹膜/
Primary retroperitoneal mucinous cystadenocarcinoma/
Mucinous cystadenocarcinoma, NOS
- 15/ 松山 篤二/ 産業医科大学第一病理学/ 60代/ 女/ 脳/
Chordoid glioma/ Chordoid glioma of the third ventricle
- 16/ 米満 伸久/ 佐世保中央病院病理部/ 60代/ 男/ 皮膚/
Atypical fibrous histiocytoma/ Atypical fibrous histiocytoma
- 17/ 矢田 直美/ 大分大学病理学講座第一/ 50代/ 女/ 皮膚/
Glomeruloid hemangioma associated with POEMS syndrome/
Glomeruloid hemangioma, NOS
- 18/ 太田 敦子/ 福岡大学筑紫病院/ 70代/ 男/ 皮膚/
Trichilemmal keratosis with trichilemmatous feature/ Seborrheic keratosis
- 19/ 島尾 義也/ 県立宮崎病院/ 80代/ 女/ 皮膚/
Apocrine carcinoma with Pagetoid spread/
Extramammary Paget's disease, NOS

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mailなどで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会: 清水道生(委員長)、堤 寛(副委員長)、望月 眞(副委員長)、佐藤昌明(北海道支部)、鬼島 宏(東北支部)、上田善彦(関東支部)、福留寿生(中部支部)、大山秀樹(近畿支部)、藤原 恵(中国・四国支部)、小田 義直(九州・沖縄支部)
